

# 【8月・2歳児・高月齢】

ほいくのおまもりプラス

	Aさん(高月齢／男児／活発) (3歳4カ月／4月生まれ)	Bさん(高月齢／女児／活発) (3歳3カ月／5月生まれ)	Cさん(高月齢／男児／静か) (3歳2カ月／6月生まれ)	Dさん(高月齢／女児／静か) (3歳1カ月／7月生まれ)
子どもの姿	1. パンツで過ごすことを喜び、保育士にトイレに誘われると張り切って向かおうとする。 2. 友だちとの関わりが増え、ごっこ遊びなど好きなキャラクターになりきって楽しんでいた。 3. 夏風邪により、1週間欠席していた。久しぶりの登園で母から離れたい様子が見られたが、日中は笑顔で過ごしている。	1. 思い通りにいかないことや気に入らないことがあると、癇癪を起こして激しく怒ったり、部屋を出ていこうとする。 2. 保育者と一緒に夏野菜の観察をしたり、水やりすることを楽しんでいる。 3. 友だちがパンツを履いているのを見て、「自分も！」と意欲を見せている。		
ねらい	1. 午睡以外の時間はパンツで過ごす 2. 友だちと一緒に過ごすことを楽しむ	1. 気持ちを受け止められながら安心して過ごす 2. 夏野菜に興味を持ち、見た目や手触りを楽しむ		
内容	1. 保育者の声掛けでトイレに行き、排尿をする。 2. 友だちとイメージを共有しながら、好きな遊びの世界を広げる。	1. 自分では処理できない気持ちを保育者に受け止めてもらい、落ち着く時間を経て安定して過ごす。 2. 夏野菜を実際に手に取り、見たり、匂ったりして、感覚を使った観察を楽しむ。		
環境構成 配慮 援助	1. 朝夕担当の保育者にも排尿間隔を伝え、職員間で連携をしながら、無理強いすることなくトイレに誘う。また、漏らさずに過ごせた時は大いに褒め、自信につなげていく。 2. 友だちとのやり取りを見守りながら、危険がないように周りの様子に留意していく。「○○かっこいいね」「○○が好きなんだね」等、イメージを共有できるように仲立ちしたり、一緒に遊ぶ楽しさが味わえるように関わる。	1. 癇癪を起こした際には、クールダウンできるような場所を作り、気持ちが落ち着けるように関わる。抱っこしたり、スキンシップを取りながら「嫌だったんだね」「○○したかったのかな」と思いを代弁していくことで、安心できる環境を作っていく。 2. 園庭の夏野菜と一緒に観察しながら「どんな色かな」「どんな匂いがある？」等、実際に触れて感じるができるように声掛けをしていく。また、絵本や図鑑等は、いつでも見ることができるところに配置しておく。		
食事	・苦手な食材を口の中に入れるものの、飲み込めずにため込んでしまう。 ・苦手な食材に挑戦したことを認めながら、一口ずつ進めるなど、無理のない範囲で食事ができるように関わっていく。	・スプーンやフォークを使いながら、自分で意欲的に食事をしている。 ・おかわりがしたい時に「もっと」と泣いて訴えることがある。量を調節し、満足できるように配慮する。		
家庭の連携	3. ヘルパンギーナや手足口病など、夏の感染症がまだ流行っているため、健康状態について細かく伝え合い、家庭でも十分に休息が取れるよう留意してもらう。 ・母は朝の様子に対して心配そうな様子である。園での様子をこまめに伝え、安心できるように配慮する。	3. お盆休みで長期間の欠席になるため、体調や家庭での生活リズムなど、こまめに連絡を取り合っていく。 ・パンツや着替えを多めに用意してもらい、家庭での排泄の様子も聞きながら、無理なくトイレトレーニングを進めていけるようにする。		
評価・反省	1. こまめにトイレに誘うことで、トイレでの排尿ができるようになってきている。遊びに集中していると濡らしてしまうこともあるため、タイミングを見ながら無理のない声掛けをしていきたい。 2. 好きなキャラクターになりきって、友だちと一緒に遊びを楽しんでいた。気持ちが高ぶってくると、友だちとトラブルになる場面も見られたため、やり取りの仕方や関わり方を丁寧に知らせていきたい。	1. 癇癪が起きた時には、廊下に出て保育者と一対一で話をすることで、気持ちを落ち着かせることができていた。友だちとのやり取りを注意深く見守り仲立ちをすることで、友だちとの関わり方を知らせていきたい。 2. 園庭の夏野菜を見て「これみたことある」「キュウリだよ」等、保育者や友だちに知らせていた。本児の興味や関心を伸ばせるように、引き続き見守っていきたい。		

無料版：2名分  
↓  
有料版の  
"おまもりプラス"  
は12名分が  
閲覧＆DL可能！

子どもの姿の1, 2は『内容／ねらい／環境構成・配慮・援助』、3は『家庭との連携』と連動しています。

敬称と性別表記：LGBTQ+の観点から、『くん』『ちゃん』などを使わず、『さん』で統一しています。ただし、発達段階の観点では性差はありとされるため、男児／女児としています。